

1. 財政の現状と課題

(1) 基礎的財政収支黒字化後の健全化目標

基礎的財政収支の黒字化は財政健全化への一里塚。わが国財政は依然先進国中最悪の状況。次に目指すべき健全化目標の設定が必要

(2) グローバル化・少子高齢化に対応した財政の確立

少子高齢化の進展による社会保障負担増が見込まれる中で、グローバル化に対応し経済活力を維持するためには、国・地方を通じ小さくて効率的な政府を構築し、国民負担率の上昇を抑制することが必要

(3) 道州制移行を見据えた税・財政制度

経団連ビジョンで掲げた「道州制」の実現に向けて、国・地方の税財政関係のあり方を設計していくことが必要

2. 財政改革の視点

(1) 国・地方それぞれの課題設定

- ・ 債券市場の中核をなす国債への信認維持の観点から、国の一般会計に係る健全化目標が必要
- ・ 地方については、道州制を見据えつつ自立可能な税財政の確立が必要

(2) マクロ経済との整合性

- ・ 財政健全化には持続的経済成長が不可欠
- ・ マクロ経済運営に細心の注意を払い歳出入改革を進めることが肝要

3. 今後の財政健全化目標のあり方

(1) 財政健全化に関する中期ルール  
の検討

1990年代以降、先進主要国では財政健全化に向けた明確なルール設定などの取り組みが進展。わが国でも中期財政ルールを検討が必要

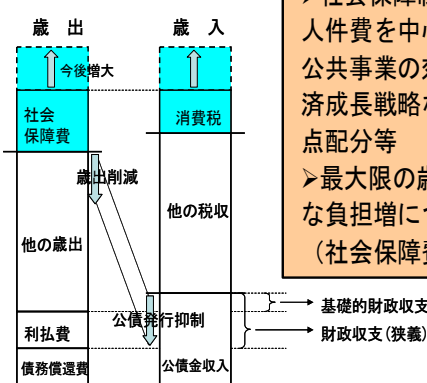
(2) 財政健全化目標の設定・共有

基礎的財政収支黒字化後の健全化目標として、債務残高対GDP比の安定的低下を目指しつつ（例えば国の債務残高対GDP比を100%以下に引下げ）、予算編成上の基準を設定

4. 財政健全化に向けた当面の課題

政府の「基本方針2006(および2007)」における2011年度までの歳出削減プログラムの着実な実施。さらに、それ以降の削減計画の策定

歳出入見直しイメージ



- 社会保障制度の一体的改革、公務員人件費を中心とする行政経費の削減、公共事業の効率化、地方財政の改革、経済成長戦略ならびに少子化対策への重点配分等
- 最大限の歳出改革を前提に、なお必要な負担増については歳入改革により対応(社会保障費増に対し消費税を拡充)

5. 地方財政改革

地方財政の問題

- ・ 受益と負担の不明確さと地方財政の改革の遅れ
- ・ 規模の経済の欠落(事務・事業の重複等)
- ・ 中央への依存体質(国・地方間のもたれ合い)

道州制における税・財政制度の基本的考え方

各道州が「地域経営」を展開し、広域経済圏を確立していく観点から、道州を単位として受益と負担の関係を明確化。基礎的自治体への財政調整は道州内で実施

道州制における税・財政制度の基本イメージ

国・地方の役割分担を踏まえ税・財政制度を再設計。その際、行政サービスへの財政的責任と税源との整合性確保が重要

地方財源見直しイメージ

